

生涯にわたって音楽を愛好する生徒を育てる 音楽科授業の実践

—中学生による小学生の音楽指導の試みとミニコンサートの開催を通して—

松 前 良 昌 ・ 黒 瀬 基 郎* ・ 濱 本 恵 康*

The Implementation of Junior High School Music Class that Engenders within the Students A Love of Music that Endures throughout Their Lifetimes.

— Through Performing a Mini Concert at an Elementary School under the Guidance of Junior High School Students. —

Yoshimasa MATSUMAE , Motoo KUROSE and Yoshiyasu HAMAMOTO

Abstract. The purpose of this study is to verify that the implementation of the class curriculum will effectively influence students to love music for the rest of their lives. The specific plan to be adopted by the class; “Let’s produce a mini concert”, is one in which the authors implemented as an optional subject. In this class, junior high school students plan and hold a mini concert for a group of younger elementary school students. We aim to open up the possibility of holding such concerts regularly and guiding a younger group of elementary school students in the performances. The authors also expect to foster a fine sensitivity for music through this activity during which the performers will experience how wonderful audience-conscious musical expression is.

The authors also desire to consider the relation between this study and the study theme of our school.

Key Words: a love of music that endures, produce a concert, audience-conscious musical expression, a group of elementary school students, a joint concert

I. はじめに

我が国では今、盛んに生涯学習の大切さが叫ばれている。音楽教育においても、生涯にわたって音楽を愛好する態度を育てたいのは言うまでもない。本校では、第2・3学年の選択音楽の授業において、隣接する小学校の児童を招待したコンサートを開催して4年になる。昨年度、小学生との合同演奏を試みたところ、小学生も主体的に参加する場面ができた意義は大きかった。そこで今年度は、コンサートを継続的に発展させるために、中学生が小学生の演奏を聴く場面と、合同演奏へ向けた事前の中学生による小学生への音楽指導を試みた。

本研究は、その授業実践について述べていく。

*広島大学大学院教育学研究科

Ⅱ. これまでの実践

筆者はこれまで、必修音楽・選択音楽だけでなく、学校行事にも関わって様々な実践を試みてきた。昨年度までの概要については、本校の昨年度の紀要で述べているので、今年度の実践を中心に概要を述べる。

1 必修音楽における実践

(1) 校内合唱コンクール

校内合唱コンクールにおいては、先輩の合唱に取り組む姿をみた後輩が、それを乗り越えようとさらに熱を入れて練習に取り組むなど、全校生徒が合唱に取り組むことが定着したと考えている。授業においても、生徒が最も合唱に対して意欲的になる時期を合唱指導にあてた。また、今年度もPTAをはじめ多くの方々のご協力で、校内合唱コンクールを校外のホールで開催することができた(図1)。



図1 校内合唱コンクール

選曲においては、3年生は広島の民謡である「音戸の舟歌」を取り入れた曲や、ラテン語のクラシックの大曲を選ぶなど、選曲の幅も広がってきた。難易度が高く、練習は大変であったが、去年の先輩を見習って、授業に合わせて自発的にクラスで音取りをしてくるなど、意欲的に取り組む姿勢が見られ、本番では生徒の満足そうな笑顔を見ることができた。来年度もホールでの開催は決まっているが、時期が変更となるため、授業の年間カリキュラムも変更させて対応していく予定である。

(2) 卒業記念演奏会(総合実技発表会)

必修音楽では3年間のカリキュラムを通して、生徒が音楽発表をする機会を多くもつよう心がけている。第3学年の後期には、毎年、総合実技発表会を開催してきたが、今年度は卒業記念演奏会と改称することで、中学校最後の発表という意識をもたせようとした。この発表会は、自由な演奏形態で発表できる場を保障することで、それまでの授業で引き出せなかった生徒たち個々の音楽性を引き出すことをねらいとしている(図2)。生徒は、既に最後の発表会があることを意識しており、早くから取り組む姿も見られた。継続して実施することで、生徒に計画性をもって、より意欲的に取り組ま



図2 卒業記念演奏会

せることができたと考えられる。生徒は、主体的かつ意欲的に活動し、内容的にも一人ひとりの個性があらわれた発表会であった。生徒の感想も、お互いを賞賛するものが多くあった。

2 学校行事に関わる実践

「音楽科」として「芸術鑑賞会」などの学校行事についても今年も積極的に関わった。

今回は、全日本合唱コンクール全国大会にも数多く出場しているアマチュアの合唱団を招待した(図3)。選曲に関しては教育的配慮から幅広いジャンルから選んでいただき、解説も交えて演奏をしていただいた。生徒は間近で美しいハーモニーを聴き、後日書かせた感想には、「声がすごく響いて



図3 芸術鑑賞会(合唱)

いるのがわかった」「みんな本当に合唱が好きなんだと思った」「ぼくたちもあんな風に歌えるようにこれからがんばっていききたい」などがあり、そのすばらしい演奏に大変感動していたことが明らかとなった。加えて、仕事をしながら生涯音楽活動を続けている姿を間近で見たことは、生涯にわたって音楽を愛好させるためにも意義深い演奏会であった。

3 選択音楽における実践

本校では第2学年と第3学年合同の選択音楽と、第3学年のみでの選択音楽がある。前者については後で詳しく述べることとし、ここでは第3学年のみでの選択教科を取り上げる。

選択音楽の授業では、「音楽を極める」と題し、少人数であることを利用して、より専門的に音楽活動をする中で芸術性を高めることをねらいとして実践してきた。その発表の場として、今年度も夏休み前に全校の鑑賞希望者(生徒・教師)を対象にコンサートを開催し、生徒が作詞・作曲した作品を披露させた。また、文化祭では全校生徒・保護者の前で発表させた(図4)。演奏は技術的な課題はあるものの生徒の気持ちがこもったすばらしい発表であった。また、運営面においても、綿密なりハーサルによって、スムーズに時間通り開催することができた。



図4 文化祭でのコンサート(選択音楽3年)

Ⅲ. 小学生を対象としたミニコンサート ～ミニコンサートをプロデュースしよう～

第2学年と第3学年合同の選択音楽の授業では、「ミニコンサートをプロデュースしよう」と題し、本校に隣接する広島大学附属東雲小学校の児童を対象としたミニコンサートを企画し開催させた。以下にその実践内容を述べる。

1 題材設定の理由

ミニコンサートも今回で4回目となる。合唱・器楽合奏など、様々な演奏形態を取り入れ、選曲においても小学生を対象とすることを意識し、運営においても生徒が中心となって実施した。

昨年度は、ミニコンサートの最後に小学生（異年齢集団）との合同演奏を取り入れ、聴き手の小学生たちも「一緒に演奏したい」と思うような、人の心を動かす音楽表現活動を、生徒の目標にさせた。また「コンサートの企画・運営」においても、生徒自らが決定し実行する場を最大限に設定した。結果、生徒は主体的に様々な活動を経験し、喜びを味わうことにより、自分自身が自らの演奏に満足する状況から、聴衆とともに音楽を共有する状況を望むように意識が向上したと考えている。また、コンサート後の小学生の感想には、中学生の演奏のことだけでなく、合同演奏のことも多く書かれており、小学生にとっても、主体的に参加する場面ができたことで、素晴らしい経験となったと考えられる。継続的に発展させることによって、生徒の音楽性・演奏技術はもとより、コンサート運営の力量も年々向上しており、この実践の効果は大きいと考えている。

今回は、前述したように、中学生が小学生の演奏を聴く場面と、合同演奏へ向けた事前の中学生による小学生への音楽指導を試みた。

これまで中学生は常に演奏する側であり、聴くことに専念する場面はなかった。中学生が小学生の演奏を聴くことによって、自分たちの演奏のあり方について考える機会とし、より表現内容や方法を向上させたいと考えた。また、小学生も観客としてだけではなく、自ら演奏することで、小学校音楽科の目標も、より明確になり、このことは小学校との連携を深め、小中合同の音楽表現活動の可能性をまた一歩進めることになると考えている。

合同演奏へ向けた事前の中学生による小学生への音楽指導については、学習したことや練習したことを表現する段階から、相手に教える段階へと、その目標をより発展させようと考えたので採用した。小学生に教えるためには、自分自身が学習した上で、系統的に理解し、考えるための要点も把握しておく必要がある。今回は初めてということで筆者も手探りの状態で、しかも短時間の体験ではあるが、自分たちが歌唱指導した小学生と一緒に演奏する喜びを味わわせるとともに、自分たちの指導方法を自己評価する場面を与えたいと考えた。将来的には音楽を人に教える経験を通して、学ぶことの楽しさと学ばせることの難しさとそれが出来たときの達成感を味わわせていきたい。

基本的には、これらの授業実践を通して、生徒に次第に質の高いコンサートを求めさせたいと同時に、そのためには理論や技術も必要不可欠であることをより強く意識させていきたい。さらには、生徒たちに自ら表現し伝えることのすばらしさを体験させるとともに、聴き手の心を動かすことの難しさと、それができたときの幸福感を味わわせたい。ひいては表現することの奥深さも感じさせ、生涯にわたって音楽を探究していこうとする生徒を育てたい。

2 生徒の実態

本校の生徒は音楽に対して興味・関心をもっている生徒が多い。必修音楽の授業では、音楽における基礎的な知識を習得させるとともに技術的な指導をおこない、音楽的な表現力を高めるよう指導してきた。その結果、校内合唱コンクールは年々音楽的にも質の高いものとなってきている。また、休憩時間にピアノやギターなど、自由な音楽活動をしている生徒も少なくない。その中でも、選択音楽を履修している生徒は、「音楽活動をしたい」という思いを、より強くもっている生徒たちである。

3 指導目標

- (1) 音楽に対する興味・関心を高め、主体的に表現する態度を養う。
- (2) コンサートを通して、音楽表現活動やその企画・運営をする喜びや感動を享受させる。
- (3) 異年齢集団を対象とすることで、聴き手を意識した表現方法の工夫をさせる。
- (4) 異年齢集団と合同演奏することで、協力して表現することのすばらしさを味わわせる。

4 指導計画（2003年4月～11月）

- (1) コンサート内容の検討，企画・運営の係分担…………… 4時間
- (2) 音楽練習，相互発表，コンサート全般の準備…………… 34時間
- (3) 小学生を対象にしたミニコンサート（2回）…………… 3時間
- (4) 反省会・まとめ…………… 2時間

5 コンサート内容の検討

まずはプログラムを構成した（図5）。今回は男子1名，女子19名，計20名と，合計人数は昨年度と同様であった。まずは，前回と同じく教師が司会進行しながら生徒に相談させる形で，プログラム構成を検討していった。最初に生徒個人個人が希望する内容を聞いたところ，ア・カペラに人気が集中していた。そこで，じっくり相談させ調整しながら，ABCDの4ブロックにわけた。しかし，ア・カペラ希望者だけは調整がつかず，本人達の希望で筆者がオーディションをすることとなった。また，1ブロックで1回出演ということにして，練習が重ならないように配慮し，また楽器も重ならないように留意しながら，演奏形態を決めた（図6）。

次に，選曲にあたっては，児童がどんな曲に興味・関心をもっているかをまず最初に考えさせた。自分たちが演奏したい曲との多少のズレがあったが，助言する中で調整していった。Cブロックについては，本格的な無伴奏女声合唱をすることになり，男子1名はギターの弾き語りに取り組むこととなった。Dについては，小学校と

選択音楽B ミニコンサート	
Program 2003.11.21. 10:00-10:50	
♪ はじめのことば	
1 月のしずく (M2) 作詞/Saitoh 作曲/佐本良典 編曲/もろけゆに	無伴奏 女声アンサンブル
2 鉄腕アトム アニメ鉄腕アトムオープニングテーマ 作詞/宮川俊太郎 作曲/高井達雄 編曲/山下啓祐	児童合唱(歌・手話)
3 小さい歌みつけた 作詞/野村胡堂 作曲/中田喜久 編曲/星田佳浩	リコーダー4重奏
4 大空舞歌 【小学生】 作詞/倉持はなみ 作曲/長沢洋典	児童合唱
5 なにをさがしに「星の中の夢」より 作詞/岸田祐三 作曲/木下敬子	女声合唱 (2カパート)
6 Over The Rainbow ミュージカル映画「オズの魔法使い」より トーンチャイム 作詞/作詞:Lyrics E.Y.Harburg 編曲/長沢洋典	
7 Kiss of Life (Kiss) 恋 作詞/作詞:栗 作曲/長井 監:中野隆仁 編曲/小寺七生	ハモニアフ (2カパート)
8 believe (Believe) アニメBelieve in Miracleオープニングテーマ 作詞/岸田祐三 作曲/CROOVE 編曲/長沢洋典	ダンス
9 翼を下さい【小・中学生合同】 作詞/山下雅夫 作曲/竹井和夫 編曲/長沢洋典	合唱(児童合唱)
♪ おわりのことば	

図5 今回のプログラム

選択音楽B 2003

ミニコンサートをプロデュースしよう!

演奏メンバー ☆:チーフ ○:サブチーフ

A			B			C		D	
ハモA	チャイム	ダンス	ハモB	リコーダー	パフォ	合唱	みなうた		
☆ nay	☆ yas	☆ oku	☆ kag	☆ nat	☆ era	☆	☆	☆	
○ kao	○ omo	○ osa	○ uta	○ sus	○ doi	○	○	○	
kuw	kus	uta	osa	uki	nay				
nat	era	ser	ser	kan	kao				
sus	obe	kag	kus		kub	女子		男女	
	doi	nai	omo		oku	全員		全員	
	uki	hon	yas		hon				
	kan				nai				
					obe				

運営スタッフ

司会・進行	会場・装飾	ステージ運営	照明	音響
☆ kao	☆ osa	☆ kub	☆ doi	☆ omo
nay	uta	obe	era	kus
kag	kan	hon	nat	yas
ser	uki	nai		oku
		sus		

履修者一覧

クラス	メンバー	人数	3年生	2年生	合計
3-1	uta era kao kag nzy	5	0	14	14
3-2	obe omo osa oku kus kub ser doi yas	9	1	5	6
2-1	kan nat nai hon	4	1	19	20
2-2	sus uki	2			
			合計	20	

演奏曲目・パート

		A					
		ハモA		チャイム		ダンス	
曲目		<i>Kiss of Life</i> 平井 堅		Over The Rainbow 「オズの魔法使い」から		believe Forder5	
パート	nat	Soprano	uki	Tone Chime 1	osa	Dance	
	kao	Mezzo I	kan	Tone Chime 2	uta	Dance	
	kub	Mezzo II	omo	Tone Chime 3	ser	Dance	
	nzy	Alto	kus	Tone Chime 4	kag	Dance	
	sus	Vocal Percussion	era	Tone Chime 5	nai	Dance	
			doi	Tone Chime 6	hon	Dance	
			yas	Tone Chime 7	oku	Dance	
			obe	Tone Chime 8			

		B					
		ハモB		リコーダー		パフォーマンス	
曲目		月のしずく RUI		小さい秋みつけた		鉄腕アトム	
パート	kag	Lead Vocal	nat	Alto Recorder 1	hon	Sign language	
	osa	Soprano I	kan	Alto Recorder 2	nai	& Vocal	
	omo	Soprano II	uki	Alto Recorder 3	kub	accordion	
	kus	Mezzo I	sus	Bass Recorder	doi	Keyboard	
	uta	Mezzo II			kao	Keyboard	
	ser	Alto I			nzy	Xylophone	
	yas	Alto II			era	Glockenspiel	
					oku	Drums	
				obe	Piano		

		C		D	
		合唱		みなうた	
曲目		なにをさがしに 「絵の中の季節」から		翼を下さい	
パート		女子全員		男女全員	

図6 生徒の係分担

の調整が必要であり、曲は夏休み前に決まった。

6 企画・運営の係分担

児童引率をはじめ、司会進行・ステージ設営・客席準備・照明・音響など生徒が中心となっておこなう(図6)。昨年、ミキサーを購入したことで、音響関係の準備・調整が格段に容易となり、今回エフェクターも購入したことで、音響的にも充実させることができた。また照明においては、昨年度と同様に筆者がパワーポイントを照明として利用し協力することとなったが、使い方にも慣れたため、昨年以上の効果をあげることができた。

7 練習過程(中学生の発表)

練習は生徒が中心となつてすすめられ、意欲的に活動した。教師は毎回授業の最初に練習内容を確認し、質問に答えたり、演奏に対してアドバイスをする形をとった。ABブロックは3つのグループが同時に練習することとなり、音楽室だけの練習は困難であるが、空き教室なども最大限利用し、約半数のグループは能率良く練習をすすめ、予定通りに仕上がっていった。「鉄腕アトム」のグループは、「総合的な学習の時間」で学習した手話を利用し、自分たちでその動作を考えた。また、「Over The Rainbow」のグループは、校長からトーンチャイムと楽譜を貸していただき、自分たちで音の分担を決めて練習し、効果的な編曲もあって音楽的に質の高いものとなった。しかし、一方で「月のしずく」のグループは当初ア・カペラで練習していたが、なかなか上手くできなかった。そこで、筆者がピアノ

で加わることとなった。それからは、音程が取りやすくなり、急速に上達していった。また、ダンスのグループは、経験者の生徒が指導していたが、半分ぐらいのところまで、難しくして他の生徒がついていけない状況になった。そこで、これまで覚えたダンスを人数や配置を変えながら繰り返すよう助言したところ、完成のめどが立った。残念ながら、男子1名のギターの弾き語りには他教科の先生にも協力していただき練習に励んだが、短期間では上達せず、中止することとなった。

運営面では、夏休み前に通し練習を行った際、幾つかの課題が残されていることに気づいた。しかしながら、昨年経験した生徒が中心となって練習することで、比較的スムーズに改善されていった。



女声合唱「なにをさがしに」



トーンチャイム「Over The Rainbow」

図7 文化祭での発表

8 文化祭本番（中学生の発表）

ミニコンサートの前に、文化祭での発表があった（図7）。ここでは、時間の関係で、生徒と相談の上、いくつかのプログラムに絞って発表した。仲間や保護者が見ているということで、緊張感があったが、堂々と発表することができた。また、進行の面も、生徒自身で時間通りに進めることができた。ここでの成功は、生徒にとってミニコンサートへ向けての大きな自信となった。

9 ミニコンサート本番（中学生の発表）

本番は2回おこなった。1回目は小学3年生1クラスを招待し、2回目は本校の教育研究会当日としたため、小学3年生1クラスに加えて、多くの教育関係者が聴衆となった（図8）。

1回目のコンサートは、選択音楽2時限の授業の後半とほぼ時間帯が一致する小学校の1時限を利用して開催した。まず、中学校の生徒が小学校に児童を迎えに行き、中学校音楽室に引率した。そして司会が「みなさん、こんにちは～」と、元気のいい挨拶をしてコンサートが始まり、楽しい雰囲気での終始した。児童は一生懸命聴きながら、笑い、驚き、時には一緒に歌い出すこともあった。演奏後、生徒の司会進行のもと、児童の皆さんから感想を発表してもらい、最後は再び小学校まで引率した。1回目は、緊張のためか、ややぎこちないところもあったが、ある程度自分たちの納得のいく演奏ができたようである。しかし予定した終了時間より遅れ、運営的には課題を残した。

2回目のコンサートは研究会当日ということもあり、前日放課後に準備し、当日は発表の1時限のみ

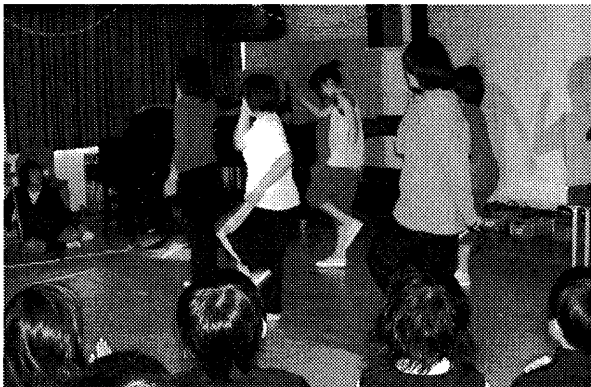
行った。多くの教育関係者が見守る中、生徒の緊張はピークに達していたようだが、スムーズに進行し、演奏も自分たちの納得のいく演奏ができたようである。



ア・カペラ「Kiss of Life」



器楽合奏&歌・手話「鉄腕アトム」



ダンス「believe」



リコーダー「小さい秋みつけた」

図8 ミニコンサート

10 小学生の演奏（本番）

小学生の演奏については、小学校の先生にお願いしたところ、こころよく引き受けてくださり実現にこぎつけた（図9）。授業の中で練習する「今月の歌」の中から選び、中学生の前で歌うことを意識させた上で、練習されたようである。本番での元気よくしかも発声にも気をつけた歌声について、中学生の感想には「一生懸命歌っている様子を見ると自分もがんばらないといけないと思った」「発声もきちんとしててきれいな歌声だった」など、多く寄せられており、中学生の心に響き渡ったことが伺える。



図9 小学生の発表

11 小学生への音楽指導と合同演奏（練習と本番）

7月に、小学校の先生との話し合いで曲が「翼を下さい」に決まった。すぐに市販された楽譜をもとに練習・リハーサルをはじめた。小学校でも歌の練習をしていただいた。音楽指導については、その

練習過程で、2回目の発表に招待するクラスへサビの副旋律の部分を中学生が歌唱指導することとし、1回目の発表を終えた10月に、1時間だけ実施した。事前に自分たちで音取りをし、担当するグループや練習計画を決めておいた。当日、生徒は慣れないながらも一生懸命指導した(図10)。初めは両者とも緊張した雰囲気だったが、徐々にうち解け、楽しく時間を過ごしていた。しかし、中学生同士のパート練習のようにはいかず、効果的な練習とまではいかなかったようである。生徒の感想には、「小学生が上手になってうれしかった」「素直に接してくれてかわいかった」などあったが、「なかなか指示が通らなくて困った」「自分がきちんと理解していないと人に教えられないのがわかった」「授業する先生の気持ちがちよっぴり分かったような気がする」なども多くあった。初めての経験ではあったが、今後の活動に十分役立つ実践となった。

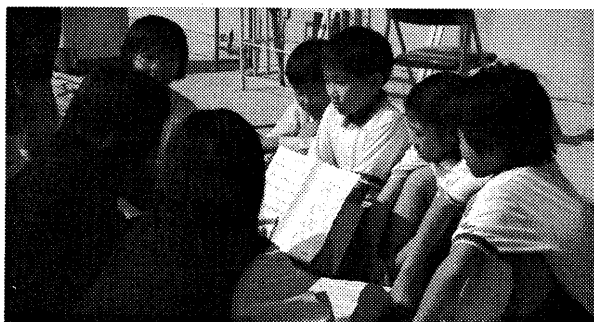
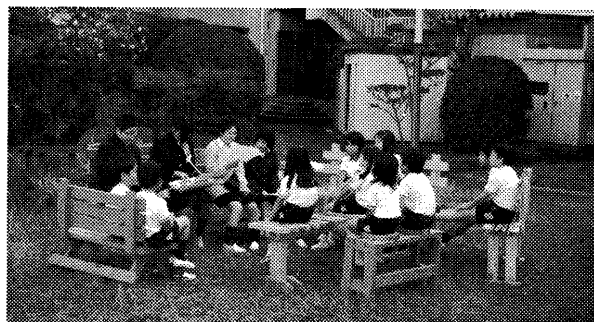


図10 中学生による歌唱指導の様子

コンサート本番では、発表の最後に実施した(図11)。児童の態度は意欲的で、歌声も大きくのびのびと歌っていた。生徒の指示に対しても反応がよかった。生徒の指示は、小学生の反応を身ながら臨機応変に指示を出し、児童の歌声をさらに大きくするものであった。しかし、生徒が教えた副旋律はやや不安定なものとなった。本番後、生徒に感想を聞いたところ、「小学生が歌ってくれてうれしかった」「一緒に合わせたとき、感動した」などの返答がある反面、「副旋律が聞こえなかった」などの意見もあった。また、「教えた子が手を振ってくれてうれしかった」「一回教えに行っているからやりやすかった」という意見もあった。このことから合同演奏は生徒にとっては、貴重で印象深い経験であったと考えられる。また歌唱指導をさせる意義も大きいと確信している。次年度は指導方法についての課題を克服していきたい。



図11 合同演奏「翼をください」

IV. 結果と考察

コンサート後日、生徒(20名)にアンケートを実施した。全員の生徒が「小学生とのふれあいが楽しかった」という意味の文章を書いていた。他にも、「小学生が一生懸命に聴いてくれたので、うれしかった」「すごく緊張したけど達成感があった」「アンコールの声がかかってうれしかった」「文化祭も緊張したけど自分のためになった」「小学生と一緒に歌ってくれてすごく感動した」「またコンサートをしたい」など、全員から音楽表現活動をする喜びや感動を得たと考えられる感想が寄せられた。また「司会がうまくできた」「照明がスムーズにできた」「演出もバッチリだった」など、運営についても肯定的な意見が多く書かれていた。この実践が成功であったことは、全員が肯定的な感想をプリントに隙間がないほど書いていたことから伺える。

この授業に関する生徒の自己評価に関しては、その評価規準を提示し、5段階で評価させ、生徒それぞれに問題の所在と将来への課題を考えさせた(図12)。これについては、ほとんどの項目で多くの生徒が5をつけていたが、何よりも、その時の感想を満足そうに筆者に話しに来るときの生徒の笑顔が、この授業の成功を物語っていたように思う。

しかし、一方で課題も残った。いくつかのグループに見通しをもった練習をさせることができなかったことである。能率の悪い練習になったことで、練習時間が不足し、よりよい表現を求めていくまでは到達しなかったグループもあった。今後は生徒により見通しをもった取り組みをさせていきたい。

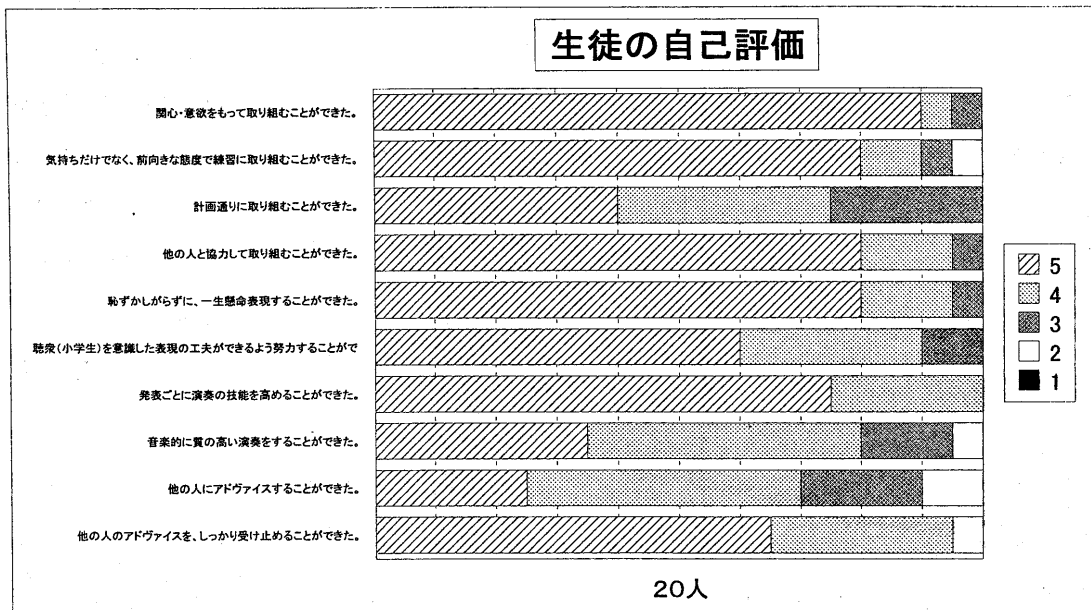


図12 生徒の自己評価

生徒の感想より

1 プログラムの内容・曲目について

- ・静かなものと盛り上がるものがバランスよくプログラムできた。
- ・小学生がなじみやすい曲を選曲できてよかった。
- ・小学生が聴いているだけでなく、歌うことができるのはいいと思った。

2 練習計画・グループ割り・練習過程について

- ・リハーサルが多めにあったので、移動の練習がよくできて本番に生かした。
- ・計画性をもって曲練習やリハーサルができたのでよかった。
- ・時間を区切って分かれて練習するのはいい方法だと思った。
- ・トーンチャイムは初めてだったけど、みんなで教え合いをして演奏もきれいにできたのでよかった。
- ・リコーダーはなかなか上手に出来なかったけど、次第に上達して、合わせみたら「きれいじゃん」と思えた。それでも、まだ下手だったけど「がんばった甲斐あったなあ〜」と思った。
- ・お互いに聴き合ってアドバイスをもらったりしたのが、とても参考になった。
- ・ダンスは難しかったけど、先輩にたくさん教えてもらったり、一緒に確かめ合ったりして、とても楽しかった。

3 文化祭での発表について

- ・緊張したけど練習通りにできてよかった。運営もリハーサルが役立った。見るのも楽しいけど、自分が見せるのもおもしろいと思った。
- ・すごく緊張したけど楽しかった。中学生に見せるのも、小学生とは違う雰囲気があってよかった。発表する機会があるとやりがいがある。
- ・ピアノを動かす役や、マイクを取りやすくする役など、陰での仕事にも力を入れて頑張れてよかった。
- ・初めてやったけど、これほど楽しいものはなかった。他の人のを聴く時、「みんなががんばったんだよな」と思えた！ とにかく最高の出来上がりだった。

4 1回目のミニコンサートについて

- ・初めてにしてはよかった。
- ・小学生の反応が楽しみだった反面、不安だった。けれども、小さい秋見つけたを小学生が口ずさんでくれてうれしかった。
- ・小学生がとても元気でおもしろかった。
- ・行動がゆっくり過ぎて、時間がかかってしまった。
- ・ダンスの着替えの時に、控室だと思ってしゃべってしまい、迷惑をかけた。

5 2回目のミニコンサートについて(研究会当日)

- ・本当に楽しめた。いつもより人が多かったけど、盛り上がったし、「やりきった!!」という充実感も大きかった。
- ・準備はとてもスムーズにでき、時間内に終わることができてよかった。
- ・アトムは歌を覚え直して本番間違えずに歌えて良かった。

- ・いっぱい人がいて、すごく緊張したけど、今までで一番うまく出来たと思う。ダンスが完璧にできたのがうれしかった。
- ・ダンスは演出も含め超version upしていたので感動した。
- ・演奏会終了後の拍手がすごくうれしかった。

6 小学生の印象について

- ・すごくかわいかった。何か聞いたら大声で返事してくれてうれしかった。
- ・知っている曲は何も言わなくても口ずさんだりしていたのが印象的だった。
- ・結構しっかりしているなと思った。
- ・反応がすごく正直だと思った。みんな明るくて積極的だった。
- ・真剣に見てくれているのがよくわかって、がんばろうという気持ちがたくさんわいてきた。本当にかわいかった。

7 小学生に歌を教えたことについて

- ・小学生はとってもかわいくて、素直に接してくれたのでやりやすかった。
- ・結構、思っていたより楽しかった。
- ・学校の先生が「静かに」と言うのには、深い深い意味があったんだと実感した…。
- ・はじめから難しいのはわかっていたけど、自分がきちんと理解していないと人に教えられないと思った。
- ・先輩が上手に教えていたので、すごいなあーと思った。
- ・仲良くなれた子が、コンサートの時に手を振ってくれたのがうれしかった。
- ・男子も女子も声が高くてびっくりした。

8 運営について

- ・流れがスムーズで、見ている方もあきなかつただろうと思う。
- ・マイクが絡まらないようにしたり、机の置き方、ライトの位置など、みんながそれぞれ自分に出来ることをしていたと思う。
- ・司会はずまくできた。「伸ばし」がはいってもちゃんとアドリブで色々言えてよかった。
- ・照明は、簡単に見えて結構難しかった。
- ・プログラム作りががんばった。
- ・先輩がすごくしっかりしていたので、とてもやりやすかった。
- ・トーンチャイムの机と木琴の移動が大変だったけど、みんなと協力して出来た。

9 全体を通して

- ・一言、たのしかった!!!
- ・選択音楽にはいって良かった。他では味わえないおもしろさや充実感があったし、みんなで何かを完成させるのは、すごくうれしかったし楽しかった。
- ・やっぱり人の前で実際にやることは、すごくいいことだと思った。毎回の練習をきちんとしていたら、発表の時に力が発揮できると思った。
- ・昨年文化祭を見て「楽しそう」とか思ったけど、実際はすごく大変なのを身にしました。でもその分楽しかったし、いい経験になった。

V. おわりに

研究会当日の授業後、授業参観者より分科会において授業に対するご意見を頂いた。生徒の生き生きとした活動、授業のアイデア、聴衆を意識した表現活動という視点などについて肯定的意見を頂いた。また、「自分もこういう授業をはじめてみたい」などうれしい感想も寄せられた。今後も生涯にわたって音楽を愛好する生徒を育てるにはどうすればよいかという視点から、様々な手段で授業実践をしていきたい。

今回、この実践を継続的に発展させたことを通して、中学生段階において、異年齢集団を対象とした演奏指導をすると同時に、コンサートを運営も含めて開催すること、さらには合同演奏を試みることは、音楽を愛好する態度を育てるという点で大きな成果をもたらすという筆者の考えはより確かなものとなった。また、小学校と中学校が連携し、義務教育9年間について考えるための一助となり得たいという点においても意義深い。今後、中学生による小学生の音楽指導に焦点をあてつつ、本研究を継続的に発展させることにより、生涯にわたって音楽を愛好する態度を高めるための授業実践の研究を、さらに推進していきたい。

引用・参考文献

- 石井眞治ほか、「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造（1）」、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、第33集、2001.pp.1～7.
- 黒瀬基郎ほか、「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造（2）」、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、第34集、2002.
- 黒瀬基郎ほか、「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造（3）」、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、第35集、2003.
- 佐野 靖・山本文茂ほか、『中学校音楽教育実践指導全集』、第4巻、アカデミープロモーション、1999.
- 松前良昌・黒瀬基郎、「生涯にわたって音楽を愛好する『生き方』を学ぶ教育実践の創造」、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、第33集、2001.pp.51～60
- 松前良昌・黒瀬基郎・瀨本恵康、「生涯にわたって音楽を愛好するための音楽科授業の創造」、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、第34集、2002.pp.63～72
- 松前良昌・黒瀬基郎・瀨本恵康、「生涯にわたって音楽を愛好するための音楽科授業の創造II」、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、第35集、2003.pp.57～67
- 峯岸 創、『新中学校教育課程講座音楽』、ぎょうせい、2000.